



令和4年度中学校武道授業（合気道）指導法研究事業

令和4年度中学校武道授業（合気道）指導法研究事業（主催＝日本武道館、合気会、日本武道協議会、後援＝スポーツ庁を2月11・12日の2日間、日本武道館大会議室（東京都千代田区）で実施した。

本事業では、昨年11月に開催された第10回全国合気道指導者研修会の振り返りと、次回開催に向けて研修会内容の充実を図るとともに改めて合気道授業の指導法についての確認を行った。

■1日目（2月11日）

開講式では、栗林孝典公益財団法人合気会渉外部長と吉川英夫公益財団法人日本武道館理事・事務局長が主催者挨拶を述べた。

開講式後は昨年11月4日～6日に開催した第10回全国合気道指導者研修会について、日程表に沿って研修内容の振り返りを行った。

検討協議では金澤威研究者から「合気道未経験の教諭に合気道を知ってもらうことが重要である。今後、学校授業での合気道を採用してもらうためには、全国合気道指導者研修会で合気道の魅力や楽しさに触れてもらうことを第一にカリキュラムの見直しと内容の検討を進めていきたい」と発言があった。

これを受けて、「合気道経験のある参加者には研修会の趣旨である『学校教育における合気道の指導法』について学校武道授業と道場指導では根本的に違うことを再認識してもらう必要がある。学校武道授業では、道場のように自ら進んで学びに来る人ばかりではない。中には運動の苦手な生徒や体育授業が嫌いな生徒もいることを踏まえて指導することが重要であること」を研究者間で再確認した。

中学校合気道指導法を担当した日野皓正研究者

は「前回の研修会では初心者班が少人数だったため講師とマンツーマンで実技を行うことができた。次回、参加者の定員が増えることを考えるとマンツーマン指導は難しい。参加者同士のグループ学習やペア学習でも安全に実施できる内容にしたい。限られた時間で実施するために、事前学習の導入も含めて準備していきたい」と研修会の成果と課題について述べた。

その後、実際の合気道授業を見てもうることが望ましいとの意見があり、過去の合気道授業映像の視聴時間を設けるなど、研修会に向けて具体的に準備する資料について確認を行った。

■2日目（2月12日）

検討協議のまとめとして、日程表案の作成を行った。続いて、要項について今後学校授業に関わる教員の参加を促すため、参加資格に「中学校及び高等学校の保健体育科以外の教科教員」を追加し、募集案内の送付先についても検討した。

また、事前学習を採り入れ、参加者には「子どもたちの指導における留意点」と「外部指導者としての心構え」の2点の課題に取り組んでもらうことを提案した。

閉講式では研究者を代表して立木幸敏国際武道大学体育学部教授が「第1回の研修会から関わってきたが、内容が精査されてきたことを実感した。合気道の特徴は形稽古でステップアップできること。誰でも上達でき、全員の底上げが可能な点では教育現場に適した魅力的な教材である。現場の理解を得られれば採択される可能性が高い武道である」と講評を述べた。

続いて、金澤威公益財団法人合気会総務部長と和田健公益財団法人日本武道館振興課長が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。